

# 全国大会を通しての学び・成長

この夏、北中3年生2名が、『全国中学校総合体育大会』に出場し、他県の代表生徒との勝負に挑みました。

その生徒とは、陸上競技のI・M君と柔道のT・I君です。市、県、東海の代表として出場したという自信と誇りをもって出場した全国大会。その時の心持ちと今思うこと、これからについてどう考えているのかが聞きたくて、先日の昼休みに校長室で直接話を聞きました。以下に記すのがその概略です。

## ①全中に参加してどんなことを感じましたか？

I・M君・・・「東濃・県と比べ、北海道から沖縄までの生徒・関係者が集う全国大会は、当たり前前のことですが、人の多さを感じました。また、他校の生徒の練習の様子を見ていて、練習方法の違い、考え方の違いを感じ、全員が強そうに見えました。実際、相手は強く、試合に懸ける想い、熱量、アツプからの意識に差があったような気がします。また、走っていて厳しいという初めての体験をしました。気持ちだけ焦ってしまっ、思うような走りができませんでした。」

T・I君・・・「何よりも雰囲気の違いを実感しました。違う国に行ったような感じがしました。一試合ごとに変わる雰囲気は言葉に表すことができません。最後に対戦した東京代表の生徒は、やってくること(攻め方)が新しく、初めて体験するタイプの相手でした。全てを振り返ると、一試合ごとが初戦のようで、緊張感がすごくありました。しかし、全国の舞台に立てたことが何より良かったです。」

## ②全中を通して、どんなことを学びましたか？

I・M君・・・「集中して臨むことの大切さです。また、周りの応援してくださる人たちの有難さ、そして感謝です。」

T・I君・・・「普段の練習の大切さ、そして勝つことの厳しさです。大きな舞台で勝つことも負けることも経験したからこそ、これからも普段の練習を大切にしていきたいと思っています。」

## ③今一番、感謝を伝えたい人は誰ですか？

I・M君・・・「部活動の皆です。全国に向けて、周りが見えなくなってしまう時、気を遣ってくれたからです。」

T・I君・・・「親、家族です。全国大会出場に向けて、いろいろなサポートや様々な我慢をもらったからです。」

## ④最後に、この先も今の競技を続けていきたいですか？

I・M君・・・「まだわかりません。今も走ることは好きですが・・・。」

T・I君・・・「高校に進学しても柔道を続けていきます！」

二人から話を聞いていて、実際の体験を通して学んだことを堂々と語れる姿や、自分一人では成し遂げることができない実績であったと、しっかりと自覚できていることに感心しました。また、二人とも、話しぶりがとてもしっかりしていることが素晴らしいと思いました。短時間のやり取りでしたが、とても心地よい時間でした。努力することの大切さ、努力しても実らない現実、そして新たな決意とこの夏、二人が大きく成長したことは間違いありません。

